

東 實 業 新 聞

發行日 五月十五日、廿五日
 定 額 共 價 一 部 十 錢 一 月 廿 錢
 一 年 二 圓 四 十 錢
 代 用 増 額 四 十 錢
 廣 告 料 特 別 欄 金 一 圓 五 十 錢
 福 島 石 城 郡 平 田 町 三 六 活 版 所
 印 刷 所 一 〇 活 版 所
 福 島 石 城 郡 平 田 町 字 長 橋 町 三 〇
 發 行 所 東 北 實 業 新 聞 社
 編 輯 人 遠 藤 林 藏

七週年を回顧して

社長としての予は經營七ヶ年の道程たるや幾多の難關と窮乏に戦ひ、無衣無産、不援孤立、其苦腦實に言語に絶するものがある然れども予が固い信念の下に活動して來た、社會の壓逼や、誹謗は河童の屁と何者の迫害も蹴破して勇邁進の勇氣はある、然し徒らに都會新聞を模倣して大ならんと欲するものではない常に思ふ社會生活上一切の基調をなすものは實に國力充實にあり國力の代價は實業方面産業の進展如何に因ると其尊い眞念の發露から將來發展の基調を培はんが爲めに其機關を造るのは目下の一大急務でありと微力ながら斯の大業を双肩に荷ひ前驅者となりて本紙を發行し地方の爲めに貢献せんとするものである識者はよろしく地方愛のために御聲援あらん事を

本紙の主義主張を反響の失墜せる東北人の喝瞳の中に打込まんとす

現在の社會状態はさうであるか凡ての點に於て腐敗墮落實に閑過すべからずである銀行は資本家のための銀行で貧者の役に少しも立たず商人はさうであるか羊頭狗肉、詐欺的行爲を敢てして恬として耻ない醫者はさうか富豪家の機嫌をとつて貧者と見ると留守を使つて往診はして呉れず官吏公吏はさうか公用としての出張先で御馳走酒に舌鼓を打つて審議も調査もなく不正行爲を働く辯護士はさうか生活難のためか不正代官に利用されて副代理として法廷に出るではないか最も悪むべきは不當不正の利得を得んがために辨當持で債權者を探し廻り事件を引受け辯護士の看板を利用して債務者を苦しめ強迫喝喝の行動をして弱者を掌中に陥れ膏血を絞つて居る三百もあるとは實に驚き實に悪むべきではないか其他教育家にはイカ者があり宗教家には賣僧あり又嘘吐き政治屋があり牛殺し馬殺しに至る迄一として満足者がなき不正者の多いにはあきれるではないかこの不良分子は一日も早く退治せねばならぬ

本紙の主張概要

- 一、國家を私する地方政黨政治の撲滅
- 二、權威名望を濫用横暴する者の制抹
- 三、銀行會社炭礦組合内容曝露
- 四、官公私吏醫師及民間役員風紀問題の剔扶
- 五、高利貸家主地主及仲立人、三百代言の横暴力制裁
- 六、農民及坑夫漁夫地方労働者等の生活運動
- 七、旅館料理店藝妓酌婦及背徳商人の矯正助動
- 九、無自覺及有害新聞記者の全面探究
- 十、地方教育及産業工業其他の事業紹介批判

東北實業新聞社
 社長 吉村白水

◆良品廉賣に勝る商略なし

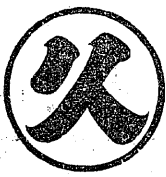
◆確實敏捷は②の生命なり

サンベルト
 磐城セメント販賣所は

サンベルト
 磐城平町五丁目

和洋銅鐵

金物問屋



諸橋久太郎商店

振替口座東京一〇九五六番
 電話 四九番 六九五番
 一三九

祝 創 刊 七 週 年

石 城 銀 行 組 合

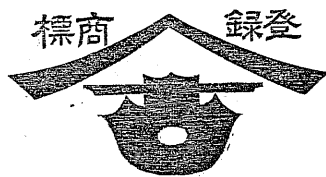
磐城銀行	平銀	磐越銀行	磐城實業銀行	磐東銀行	四倉銀行	第七十七銀行	第七十七銀行	農工銀行	常磐銀行
平町	平町	南町	平町	植田町	四倉町	平町	平町	平町	植田町

日清生命保險株式會社

代理店 平町 磐城銀行

七大便利を有す

我社は五大特色を有す



釀造元

東京支店

上野車坂町四三

山崎合名會社

福島縣平町

電話(營業部) 一〇七番

電話(釀造工場) 二七番

電話(淺草) 五七二八番
振替東京六八三一一番